プトゥン『入菩薩行論注釈』第 10「廻向」章の研究

斎　藤　　明

はじめに

これまでに関連する 7 篇の拙稿により [1]、旧本『入菩薩行論』の最終「廻向」章 66 偈のテキストと和訳（(1)(2)(3)）を提示したうえで、拙稿 (4) では旧本に対する唯一の注釈文献『入菩薩行論解説細疏』の著者（不明）による構成理解とともに、新本 58 偈のテキストと内容を確認した。

そのうえで、拙稿 (5)(6)(7) は、総計 58 偈からなる、新本の最終「廻向」章に対して注釈を施す 3 つの注釈の訳注およびチベット語訳テキストを提示し、それぞれの内容に考察を加えるとともに、末尾に置かれた奥書を紹介した。すなわち、(5)では*Kalyāṇadeva 作『入菩薩行論の装飾』*Bodhisattvacaryāvatāra-saṃskāra*（D 東北 No. 3874、P 大谷 No. 5275, Śrīkumāra & dGe ba'i blo gros 訳）を、(6) では、残りの 2 つの注釈の中の Vairocanarakṣita 作『入菩薩行論細疏』*Bodhisattvacaryāvatāra-pañjikā*（D No. 3875B, P No. 5277. 訳者不詳）を、そして前回の拙稿 (7) は Vibhūticandra 作『入菩提行論意趣細疏「卓越性の解明」』*Bodhicaryāvatāra-tātparyapañjikā viśeṣadyotanī nāma*（D No. 3875B, P No. 5277. Vibhūticandra 訳）を扱った。

本稿では、これら 3 つの注釈をも活用して独自の注釈を著したプトゥン・リンチェンドゥプ（Bu ston Rin chen grub, 1290-1364）の『入菩薩行論注釈「菩提心の照明」』の内容を分析し、考察を加えたい。

Ⅰ　プトゥン作『入菩薩行論注釈「菩提心を照明する月光」』第 10「廻向」章

プトゥン・リンチェンドゥプ（Bu ston Rin chen grub, 1290-1364）は、シャーンティデーヴァ作の『入菩薩行論』を重視し、1334 年にチベット大蔵経・ナルタン版・写本テンギュルの総計 3392 点をシャル寺に奉納した際には、『入菩薩行論』とともに 10 点の注釈文献（広義）の翻訳を中観部（dBu ma'i skor）内に収めた。プトゥンはその上で、1338 年には、自ら『入菩薩行論注釈「菩提心を照明する月光」』を著している [2]。

カダム派の六宗典の一つとして重用された『入菩薩行論』には、インド人のみならず、多くのチベット人学僧も注釈を残している[3]。これらのチベット撰述の注釈の中でも、プトゥンによる本注釈は出色である。プトゥン自身が入手し、ナルタン版・テンギュル内に自らが確定して納めたインド撰述の注釈文献のすべてを活用するとともに[4]、以下の注釈内容からも分かるように、『入菩薩行論』の少なくとも 2 本のインド写本（以下の訳文中の下線部および本稿第Ⅱ節参照）を利用して、チベット訳本との異同にも言及している。また、プトゥンの注釈は、詳細な科判（sa bcad）を適用して全体の構成を解説する点でも際立った特徴をもっている。

以下は、プトゥンによる第 10「廻向」章の注釈内容の和訳を、科判（sa bcad）とその訳、および該当する偈頌番号とともに提示する。和訳については、偈頌の引用語句と推定される箇所は**太字**で鍵括弧（「**太字**」）を付して表記する。テキストは、ごく一部の問題箇所には注記を施して読むほか（注 9）参照）、基本的にラサ（ショル）版を再録する Śata-Piṭaka 本を使用し、フォリオ番号と表(a)・裏(b)を訳文中に記す。また、上述のように、インド写本に言及する箇所には下線を付して明示する。

3.[5] (dza 203b2-)

3.1 las ’bras bu dang bcas pa’i don du dge rtsa bsngo ba

行為が果報を伴うために善根を廻向すること（kk. 1-57）

3.11 gang zag gzhan don du [bsngo ba]

他の人の利益のための［廻向］（kk. 1-50）

3.111 ’jig rten pa’i [don du bsngo ba]

世間の［ための廻向］（kk. 1-48）

3.111.1 phal pa’i [don du bsngo ba]

通常人の［ための廻向］（kk. 1-41）

3.111.11 教示

［第 1 偈］（Dza 203b4）シャーンティデーヴァという「**私**」がすべての過失を捨て、すべての徳の完成に住む者の真実智たる一切智者性が「**さとり**（菩提）」であり、そのための「**行**」、すなわち布施等の修習、あるいは［『入菩薩行論』の］十章の意義をもって集められた［十］地と道および［六］波羅蜜「**に入ることを**」、先に説かれた九章が説明するであろうが、［第十］廻向とともに、「**詳しく**」、すなわち特別に「**思念**」し、考察する私に生じる「**浄善**」、「**これによって**」「**生類は**」、すなわち「**すべての**」生き物は、「**さとりへの行をもって荘厳されよ**」（byang chub spyod pas rnam brgyan shog, *bodhicaryāvibhūṣaṇāḥ）とインドの写本（rgya dpe）には出る。

すなわち、さとりへの行こそを荘厳するのである。言葉を知に受け入れ、意味を心意において修習することによって飾るのであるから。

［第 2 偈］東方などの「**すべての方位に身心の苦難に**」すなわち障害に「**悩まされる者が**」とは、苦しむ者あるいは貧しい者が、すなわち数えられるほど「**いるかぎり**」、「**かられらは**」、シャーンティデーヴァという「**私の**」「**善行**」の力「**により**」、尽きることを知らない「**海**」のような身体の「**安楽と**」意楽の「**歓喜**」を「**得られよ。**」

［第 3 偈］（204a）かれら「**世の人は**」「**仏の安楽を得るまでは**」、「**安楽は**」「**消え失せること**」、すなわち滅びること「**なかれ**」。「**世の人は**」「**至高の安楽を**」常に「**絶えることなく**」［得］られよ。インドの写本（rgya dpe）には「**あらゆる輪廻において、かれらの安楽は、決して消えうせることなかれ。世の人は、絶えることなく菩薩の安楽を得られよ。**」（kun du ’khor bar de rnams kyi// bde ba nam yang nyams ma gyur// ’gro ba rgyun mi ’chad pa ru// byang chub sems dpa’i bde thob gyur//, *āsaṃsāraṃ sukhajyānir mā bhūt teṣām kadācana/ bodhisattvasukhaṃ prāptuṃ bhavatv aviratam jagat//）[6] と出る。「**菩薩の安楽**」とは、無漏の安楽であると［ヴィブーティチャンドラの］注釈で説明される。

3.111.12 bshad
説明
3.111.121 ngan ’gro
悪趣［のための廻向］（kk. 4-18）
3.111.121.1 dmyal ba’i
地獄の［ための廻向］（kk. 4-16）
3.111.121.11 duḥkha bde bar ’gyur ba
苦が安楽になること（kk. 4-10）
3.111.121.111 dmyal ba spyi’i
地獄一般の［苦が静まるよう願うこと］（k. 4）

［第 4 偈］後に「**私の善行の力によって**」（k. 10c）というすべてに結合する。「**世間に**」等括（*saṃjīva）、黒縄（*kālasūtra）、衆合（*saṃghāta）、叫喚（*raurava）、大叫喚（*mahāraurava）、焦熱（*tāpana）、大焦熱（*pratāpana）、無間（*avīci）、すなわち［八］熱［地獄］と、阿吒吒（*aṭaṭa）、訶訶婆（*hahava）、呼呼婆（*huhuva）、水疱（*arbuda）、大水疱（*mahārbuda）、青蓮（*utpala）、紅蓮（*padma）、大紅蓮（*mahāpadma）、

すなわち［八］寒［地獄］と、小［地獄］（nye ’khor ba[’i dmyal ba]）と、個別［地獄］（nyi tshe ba’i dmyal ba, *pratyeka[-naraka]）、「**なんであれ**［諸々の地獄が］**あるかぎり**」、無量光仏の国土、ここには汚れのない（無漏の）安楽［のみ］があるので「**安楽国**」であり、［十］地に入った菩薩のみが生まれる国土であり、「**そこ**（地獄）**にいる**」地獄の「**生き物たちは**」、身体の安楽と心の安楽の歓びをもって、「**喜ばれよ。**」

3.111.121.112 grang dmyal gyi

［八］寒地獄の［苦が静まるよう願うこと］（k. 5a）

［第 5a 偈］水疱（*arbuda）などの「**寒さに悩まされるものたちは暖熱**」の安楽「**を得よ。**」

3.111.121.113 tsha dmyal gyi

［八］熱地獄の［苦が静まるよう願うこと］（k. 5bcd）

［第 5bcd 偈］（204b）ほかならぬ「**菩薩**」が憐憫をもって、熱地獄に清涼な水の雨を降らせる「**大雲から生じた海のような果てしない水によって**」、熱地獄の「**熱に悩まされるものたちは**」、「**清涼さ**」の安楽を得よ。

3.111.121.114 nye ’khor ba’i

［それらの四方に四つずつある十六］小地獄（*upanāraka）の［苦が静まるよう願うこと］（kk. 6-8a）

［第 6 偈］「**刀**」、弓、小槍等の「**葉**」をもつ「**森**」や、それが表出する多くの剃刀の刃先をもつ道も、「**かれら**」地獄のものたち「**には**」、シャクラ（帝釈）の園林である「**歓喜の森の**」、幸いを与える「**輝きあれ。**」幻術行為によって化作された、鉄の［刺］先が燃え、鋭く、十六指量の長さの、先を下に向けた［刺］をもつ木「**シャールマリ樹も**」、ふさわしい望みの物を与える神（天）の「**如意樹となれ。**」

「第 7 偈」鉄の烏や、鷹や、雁すなわちカーダンバ（kādamba）鳥や、鴨や、鵞鳥や、白鳥すなわちカーランダヴァ（kāraṇḍava）や、「**など**」の語により、孔雀などの「**愛らしい鳴き声**」、すなわち声をもって「**美しいものとなれ。**」たいへん心地よい「**蓮の香り**」にみちた諸々の池により、地獄の諸方は、腐った味で、悪臭をはなつ泥土にある多くの災いは「**麗しいものとなれ。**」

［第 8 偈 a］火が燃える熱灰［小地獄］のその「**炭の堆積**」の道も、美しく輝

く「**宝珠の堆積であれ。**」

3.111.121.115 thun mong du gzhi las gyur pa'i duḥkha zhi bar smon pa
共通に［地獄という］拠り所にもとづく苦が静まるよう願うこと（kk. 8bcd-10）

［第8偈bcd］［八］熱地獄一般における鉄が燃焼する、すなわち火が燃える床は「**水晶の床であれ。**」衆合［地獄］における羊、山羊、馬、水牛、象、虎、獅子のような形をした山によって侵害される有情たちも、多くの供養によって荘厳された神の殿堂となり、内部は「**善逝**（*sugata）**に満ち**」て、地獄の者どもに現れよ。

［第9偈］ヤマの従者ら（205a）によって降らされた「**炭火**」と「**焼かれた石**」と「**剣の雨は、今からは**」かれら地獄の者どもの頭に、「**花の雨**」となって降れ。利己心の異熟により財物の集まりを見ては走り出し、「**相互の**」すなわち互いの「**剣によるこの闘いも**」「**今**」からは、喜んで「**遊戯のための**」互いの「**花の闘いであれ。**」

［第10偈］銅の溶け流れる沸騰水に満ちた地獄の溝穴をもち、渡ることは可能ながら、「**火のよう**」で、［火に］等しい［地獄の］「**ヴァイタラニー**」「**河**」「**に沈む**」、すなわち底まで沈む「**者たちは**」、「**すべての肉が落ち**」てなくなり、「**ジャスミンの花の色のように**」白くなった「**白骨**」も、シャーンティデーヴァ「**自身の善行の力によって**」「**神の身体を得て**」「**神妃たちとともに**」「**マンダーキニー河**」と言われる天上のガンジス河で戯れるために「**住まう者となれ。**」

3.111.121.12 khyad par nye ba'i sras kyis duḥkha zhi bar smon pa
特に［八大］随仏子（＝菩薩）に苦を鎮めるよう願うこと（kk. 11-15）

3.111.121.121 phyag rdor 金剛手（k. 11）

［第11偈］地獄の者は金剛手を見よ。いかにしてか。金剛手の出現を原因として、［ヤマの使者などの］地獄の看守者は恐れ慄き、地獄の者に歓びと楽しみが生まれるとき、なにゆえ「**この**」地獄「**においてヤマの従者**」すなわち使者や、「**恐ろしい烏や禿鷹たちを恐れ慄かせ**」、肉や骨髄などが燃える煙が立ち昇ることによって作られた「**あまねく闇**」すなわち暗黒の闇を「**消えさり**」、身体には「**安楽**」、また心には「**歓びを生むすぐれた力**」すなわち「**この**」喜ばしい「**光明は誰の力か、といって上方を眺め、虚空の**

中に金剛手が」光を「**輝かせているのを見て歓喜**」すなわち清浄さ「の**衝撃により悪業が消えうせ**」、「**その**」金剛手と（205b）とともに親近せよ[7]。

3.111.121.122 spyan ras gzigs 観自在（/ 観音）（k. 12）

［第 12 偈］観自在の力により「**華**」すなわち蓮華の「**雨と香水**」すなわち芳香の「**水と混ざることにより、ふれ。**［それ］**が、地獄の炭火をチルチルと消すのを見よ。**」地獄の者の身体が「**突然の幸せに歓喜し、これは何**」なのか、「**と思い**」ながら虚空を見て、「**地獄に棲む者は、蓮華手**」である観自在「**を見よ。**」

3.111.121.123 ’jam dbyangs 妙音（＝文殊師利）（kk. 13-14）

［第 13-14 偈］妙音を見て、地獄の有情たちが叫ぶのは、「**友らよ、怖れを除かれよ。**」すなわち捨て去って、「**速やかに**」すなわち直ちに「**来られよ。来られよ。**」「**われわれが生きているのはその威神力**」すなわち能力「**により**」、「**すべての**」苦すなわち「**災難が消えうせ**」、「**歓喜の奔流**」すなわち力が「起こった」。すわなち発生した流れをともない、「**すべての生物**」すなわち生きものを「**救う**」「**光明**（’od, *ābhā）」というのは、インドの写本には「**母**（ma, *mātā ）」[8]と出る。すなわち、母のように「**同情**」する悲心と、「**菩提心とが生じた**」というのは、頭の髻は並んだ火炎をもつが、怖れさせず、［その］無畏はいかなる仕方でも、あるいはいかなるものであれ、私たちのもとでは恩恵であるが、「**君は**」「**幾百の神々の**」頭上の「**宝冠によって蓮華のような脚が供養され**」、私たちへの悲心の「**憐憫によって潤んだ眼**」をもち、「**頭上には**」神々の「**多くの花の**」供養の「**激しい雨とふりそそぐ**」楼閣、すなわち比類のない「**心地よい**」宮殿において、「**幾千の天女**」が妙音の賛歌を歌唱ととらえ、歌声ひびく「**この方**」妙音を「**見よ**」と叫び、今、友らはこちらに来られよ、等ということによって、「**地獄の者たちは**」喜びの（206a）「**歓声を上げよ。**」

3.111.121.124 nye ba’i sras gzhan mthong ba’i mthus sdug bsngal zhi bar smon pa 他の随仏子（＝菩薩）を見る力によって苦を鎮めるよう願うこと（k. 15）

［第 15 偈］「**このように**」、［金剛主と観自在と妙音（＝文殊師利）という］主要な三つの［菩薩］種姓の威神力（*anubhāva）により[9]、….［苦悩?］が鎮まることを詳説したのち、他の随仏子（＝菩薩）による地獄の者への祈願をまとめるのが、［第 10 偈の注釈内でも］前述した、「**このようにシャーンティデーヴァ自身の**」書物を著すという「**善根によって**」「**普賢**」

菩薩「**を筆頭とする**」の語により、弥勒などの他の随仏子が含まれる。煩悩と所知の「**障害のない**」群「**雲**」のようなその十地の「**菩薩**」による、安楽と苦痛がないので「**涼しく、香りよい風の雨**」が降るのを「**見て**」、かれら「**地獄の者たちは**」、それら［の諸菩薩］を見て、「**歓喜せよ。**」[10)]

3.111.121.2 dud ’gro’i 動物（畜生）の［ための廻向］（k. 17ab）

［第 17ab 偈］これ以下は、すべて［の偈頌］に関して、後の「**私のこの福徳により**」（k. 31: anena mama puṇyena ）というこ［の句］と、すべて結びついている [11)]。「**動物（畜生）は**」、相互に［すなわち］「**たがいに**」大きなものが小さきものを喰らい、また小さきものは多くが集まって大きなものを喰らう「**恐怖**」や、それによって示されるすべての苦は「**消え失せよ。**」

3.111.121.3 yi dvags kyi 餓鬼の［ための廻向］（kk. 17cd-18）

［第 17cd 偈］「**北クル（北倶盧洲）の人々**」が千年［の寿命］を得て、突然の死はなく、［田が］耕されず［苗が植えられずしても］米を食べ、如意樹の享受を保つように、「**餓鬼らは幸せであれ**」。

［第 18 偈］「**観自在**」菩薩「**の手から滴る**」、悲心の流れから出る甘露の「**乳の流れにより**」、餓えて飢えた「**餓鬼たちは**」、食料と飲料に「**満たされ**」、「**乳の流れによって清められ**」、暑熱をはなれて「**清涼であれ**」。

3.111.122 bde ’gro 善趣［のための廻向］（kk. 19-30）

3.111.122.1 mi ’dod pa dang bral bar [smon pa]

望まないものから離れようにとの［願い］（kk. 19-26）

［第 19 偈］これら［以下の 8 偈］は悪趣のために廻向しないのではないが、最高のもの（人）を取り上げ（206b）て、人の部類（要注記 zi’i, read mi’i ）である「**盲人たちは**」眼を得て「**色かたちを見よ**」。「**聾者は**」耳を得て「**音を聞け。**」胎内に子を宿す「**妊婦**」あるいは［マハー］「**マーヤー夫人**」においてブッダが誕生する時に「**苦熱なく**」右脇から産まれたように、幼子が傷つかず、「**痛み**」のドゥフカ（duḥkha）「**なく分娩されよ。**」

［第 20-21a 偈］「**裸の人々は衣料を、餓えた人々は食料を、渇いた人々は水や美味しい飲み物を得よ。**」（＝第 20 偈 Tib.）「**貧者らは**」すなわち貧しい人々は「**富める者であれ**」（＝第 21a 偈 Tib.）。これらに対して、インドの写本には、「**衣類・食料・飲料・花環・白檀・装飾、すべての心に願うもの、安寧にみちびくものを得られよ。**」「**恐れをいだく者は、恐れなき者と**

なれ。」（gos dang bza' ba btung ba 'phan// phreng ba tsanda-na rgyan dang ni// yid la mngon par 'dod pa kun// phan zhing kun phan rnyed par shog// 'jigs pa rnams kyang 'jigs med gyur//）と出る[12]。その意味は、［ヴィブーティチャンドラの］注釈に、「衣類 [20a] 等は良くても役に立たないものはふさわしくないので、何であれ望まれるすべての役立つものを得られよ [20d]。王や強盗などによる恐怖に恐れをいだく者たちは恐れなき者となれ」[13]と出る。

［第 21bcd 偈］父、母、息子等と別れる「**悲嘆にくれて**」苦しむ人々は、悲嘆のない「**喜びを得る者となれ。**」内と外の障害によって「**不安におびえる人々は心が癒され**」すなわち不安のない「**意志堅固**」な幸い「**を成就を得る者となれ。**」

［第 21'偈］「**病気の有情はみな**」、すべての存在するものは「**ただちに病から解放されよ。**」「**生類の病**」四百四の「**すべては**」「**あらゆる**」時に「**発症することなかれ。**」[14]これは、インドの写本では、［次の第 22 偈冒頭詩節の］「**病める人々も健康で**」（nad pa rnams kyang nad med cing//）[15]と一つに収められて現われる。

［第 22 偈］「**恐れをいだく者は、恐れなき者となれ。**」これは先に説明した。王などの牢屋に五縛によって「**束縛される人々は解放されよ。**」「**力失せた**」、力の弱った「**人々は**」内と外の力（207a）を得て「**活力ある者となり**」、「**互いに愛情ふかい**」すなわち憎悪をはなれ「**堅固な者となれ。**」

［第 23 偈］道に入っている「**すべての人々にとって**」、行くところの「**すべての方位は恵み多いもので**」、すなわち災いが静まって「**あれ**」。「**かれらがある目的をもって行くとき、そ**［の目的］**はたやすく成就せよ。**」

［第 24 偈］川から［人や荷物を］運ぶ「**小舟や**」、海から運ぶ「**大船**」、すなわち船に「**乗る人々は、願いが**」すなわち願望が成就し「**かなう者であれ。**」水の、すなわち海などの「**岸**」、すなわち岸辺に「**安全に到着して**」、みずからの「**親族とともに**」会って「**歓ばれよ。**」

［第 25 偈］「**荒野**」すなわち歩くのが難しい道と、「**険しい道に**」誤って「**迷いこんだ人々は**」、共通の目的をもって道を行く「**隊商に出逢って**」「**盗賊**」や「**虎**」や、「**など**」の語によって通山税などの「**怖れなしに、倦みつか**

れることなく」安心して「**進め**」、すなわち行かれよ。

［第26偈］「**森林**」すなわち森や猟師や、「**など**」の語によって荒原や道なき所や「**危険な場所**」すなわち歩くのが難しい場所に、十五以下の「**子**」や六十以上になった「**老人**」や「**身寄り**」すなわち庇護者のいない者、「**眠る者**」や、酒などによって「**酔った者**」あるいはまた正気を失った者や、「**酩酊した者**」すなわち、心が大いに散乱し、あるいは注意力がなくなって酔いしれた者たちを「**神々は保護されよ。**」

3.111.122.2 ’dod pa grub par smon pa

望みが成就するようにとの願い（kk. 27-30）

［第27偈］先に説明した道を成就する拠り所である「**不遇**」すなわち不運な境遇から「**解放され**」る機会［を得よ］。*カルヤーナデーヴァは［この偈を］神のための廻向であると説明する。（要注記）意思の拠り所について「**信と**」、二真理（二諦）を認識しうる考察の「**智慧と**」、有情に対する「**情け**（207b）**をもち**」「**食と振る舞いをそなえ**」、また「**つねに前世を想起し**」て、悪行を避けよ。

［第28偈］すべての世間は、虚空全体の蔵にあるかぎりのものを得た「**虚空蔵**」菩薩「**のように**」、あるいはまた聖者善財［童子］のように「**尽きることのない資財**」すなわち無尽の蔵を得る者となれ。互いに闘いや「**争いなく**」「**傷つけること**」あるいは疲れて困窮すること「**なく自立して行い**」活動する「**者であれ。**」

［第29偈］「**有情の気力**」すなわち能力あるいは健やかさが「**乏しい者たち**」、かれらは「**気力漲る者となれ。**」「**醜い苦行者たち**」、かれらは「**美しさをそなえた者となれ。**」

［第30偈］女性を拠り所として仏は現れないため、「**世の女性たちはみな**」「**男性と**」して生まれることに「**なれ**」。チャンダーラなどの「**下賤な人々は**」、種姓あるいは富などの備えにより、「**高貴さを得た者**」となれ。［高貴さを］得ても、煩悩である「**慢心をも克服した者であれ。**」

3.111.123 ’gro ba ma lus pa 一切趣［のための廻向］（kk. 31-41）

3.111.123.1 ’dod pa phun tshogs thob par [bsngo ba]

願いの円満を得るようにとの［廻向 ］（kk. 31-39）

3.111.123.11 bsgrub bya dge ba [phun sum tshogs par bsngo ba]

成就対象者が善行［を円満するようにとの廻向］（kk. 31-32）

［第 31 偈］「**私**」シャーンティデーヴァ「**のこの福徳**」は、他の異熟［果］や等流果には生じないとしても、他の増上［果］や士用果にも生じるのであるから、この福徳の最高の力によって「**すべての有情は残りなく**」、捨て去るべき「**すべての罪悪をやめ**」、成就すべき「**善行をつねになせ。**」

［第 32 偈］心としての「**菩提心を捨てず**」、行としての「**菩提行に**」、成就としての「**専念する人**」は、摂取者としての「**諸仏**（208a）**に摂取され**」、その反対である、縁を妨げる「**魔の所業から遠ざかれよ**」。

3.111.123.12 sgrub pa'i rten 'tsho ba [phun sum tshogs par bsngo ba]

成就の拠り所［となる有情の］生存［が円満するようにとの廻向］（k. 33）

［第 33 偈］「**これらすべての有情は**」、成就の拠り所の流れである「**寿命も無量**」、すなわち測り知れない長さを得よ。［偈頌内の「寿命も」の］「**も**」（yang）は後続［の語句］を連結させる［語］である。「**つねに**」病なく、偽りの生活を捨て、「**幸せに生き**」、死の出来事は言うまでもなく、「**語**」さえ「**も耳にすることなかれ。**」[16]

3.111.123.13 sgrub pa'i gnas [phun sum tshogs par bsngo ba]

成就の場［が円満するようにとの廻向］（kk. 34-36）

3.111.123.131 chos ston pas gang ba'i tshal

説法者に満ちた森［が円満するようにとの廻向］（k. 34）

［第 34 偈］*カルヤーナデーヴァは、ここからブッダと菩薩への供養のための廻向が説かれると説明するが [17]、ブッダ等を伴った地への願いなのであるから、高僧（bla ma）たちが成就する地の円満［への廻向］と説明するのがふさわしい。「**如意樹が**」喜ばしい、すなわち心地よい「**園林**」で、「**ブッダとブッダの**」本質から生まれた「**子（＝仏子、菩薩）**」［による］、すぐれた「**心地よい法**」すなわち心を奪う音声の「**響きに満ちた**」［その］園林によって「**すべての方位は満ちたものとなれ**」[18]。

3.111.123.132 rang bzhin dag pa'i sa gzhi

本性清浄な大地［が円満するようにとの廻向］（k. 35）

［第 35 偈］「**大地はあらゆるところ砂利**」あるいは壊れた瓶の破片や、「**など**」の語によって刺などがないことが［言及され］、「**手のひらのように**」高低がなく「**平らで**」、「**瑠璃**」宝「**を本質とするもの**」、すなわちそれから成

る館あるいは大地は、カーチリンディカ（細綿布）のように、触れるや「**柔らかなものとなれ。**」

3.111.123.133 nyan pas brgyan pa'i gnas phun sum tshogs par bsngo ba
聴聞による荘厳が円満するようにとの廻向（k. 36）

［第 36 偈］正義（/有徳 *dhārmika）に入る原因であるから、説法の「**大集会はあまねく**」、すなわち完全に、あるいはあらゆる所で「**菩薩の大集会**」すなわち多くの［菩薩］は、「**みずからの輝き**」すなわち美徳により、「**大地**」すなわち地（208b）面を「**荘厳されよ。**」

3.111.123.14 sgrub pa'i yongs su 'dzin pa [phun sum tshogs par bsngo ba]
成就の摂受［が円満するようにとの廻向］（kk. 37-38）

［第 37 偈］「**生き物**」すなわち「**すべての**」有情が成熟するために、仏の加護の力により、鳥類である「**鳥や**」「**樹木や**」太陽などの「**すべての光や**」、それのみならず「**虚空からも**」正しい「**教法の響きは絶え間なく聴かれよ。**」

［第 38 偈］「**かれら**」有情は、時の「**つねに**」、摂受する「**ブッダとブッダの子（仏子）**」である菩薩「**に遇**」って、出会いを得ら「**れよ**」。会われたのちにまた、事物と心から生じた「**果てしない供養の雲をもって**」ブッダの子（＝菩薩）を伴う「**世界の師（＝ブッダ）を供養されよ。**」

3.111.123.15 sgrub pa'i phyi'i rkyen phun sum tshogs par bsngo ba
成就の外的条件［が円満するようにとの廻向］（kk. 39-40ab）

［第 39 偈］人々は道法において最重要であるから、かれらは現世において幸福のために「**神**」の子は［穀物を生育させるための］雨の心をもって「**ふさわしい時節にまた雨を降らせ**」、それによって［人々の］養育の基礎となる「**穀物は稔り豊かになれ。**」世間を守護する「**王は正しくあれ。**」従者である「**世人たちもまた繁栄**」し、成長「**せよ。**」

［第 40 偈 ab］病を除く「**薬草は効力あれ**」、すなわち効果が円満せよ。真言を成就する人々には、「**真言を唱える結果がもたらされよ。**」

3.111.123.2 gnod pa nye bar zhi bar bsngo ba
災難が静まるようにとの廻向（kk. 40cd-41）

［第 40 偈 cd］有情を害する心をもつ「**ダーキニー（鬼女）やラークシャシャ**

(羅刹)」、「**ら**」の語によって食肉鬼（*piśāca）などは「**悲心に満ちた**」、害心のない「**ものとなれ。**」

［第 41 偈］「**いかなる有情も苦しむことなかれ。**」人や人でないものによる恐怖や、他人に「**軽蔑されること**」にならず、「**いかなる人も落胆していることなかれ。**」

3.111.2 khyad par bstan pa la zhungs pa'i

特に教えに向かう人［のための廻向］（kk. 42-47）

3.111.21 spyir dge 'dun gnas dang bcas pa

総じて僧伽の住人を伴う人［＝四衆のための廻向］（k. 42）

［第 42 偈］（209a）三宝の拠り所である「**僧院は**」、教説の「**読誦や**」、講説の「**学習**」をなすことにより「**満ち**」、すなわち十分で、広がり「**栄えよ。**」「**つねに僧伽は和合し**」、すなわち同一の心意をもち、分裂することなく「**僧伽の**」行為の「**目的も成就せよ**」。「**も**」の語により、分裂のないことに尽きずに、というのである。

3.111.22 khyad par dge slong pha ma

特に比丘と比丘尼［のための廻向］（kk. 43-44ab）

［第 43 偈］戒において損なわれることなく、「**学処を愛する比丘たちは**」、「**遠離をも得られよ**」。専心（三昧）の敵である内外の「**すべての散乱心をはなれ**」、「**心は**」怠惰でなく、あるいは禅定しうる「**ふさわしい［心で］瞑想修習せよ**」。

［第 44ab 偈］「**比丘尼たちは**」身体が小さいのであるから、僧衣と食などを「**得て**」、互いに「**口論や煩い**」あるいは貧困を「**はなれてあれ。**」

3.111.23 rab byung spyi

出家者一般［のための廻向］（kk. 44cd-45）

［第 44cd 偈］比丘や比丘尼のために誓願をなすのと同様に、解脱の城に入るために、在家（*agārika）から出家（*anagārika）する「**すべての出家者は戒めを犯すことなかれ。**」

［第 45 偈］「**悪い行ないを習慣とする**」、すなわち陥ったなら、それを悔いて「**恐れおののき、つねに**」［信、精進、定、慧の］四力（*catvāri balāni）の懺悔により、犯した「**罪悪を滅ぼされよ**」。次の生においては、天あるいは人の「**善い生存をも得て**」、「**そこで誓いを全うせよ。**」

3.111.24 mkhas pa'i don du bsngo ba

賢者のための廻向（kk. 46-47）

［第 46 偈］教説の根本である三蔵に関して、蔵を伝持する「**賢者たちは**」、他者によって最高の方であるとの「**歓待**」と、生活の糧である「**施物をも受けられよ。**」その「**［心の］流れは**」、増上慢や、利得や恭敬への執着等がないため、「**清浄となり、あらゆる方向において**」称賛の「**名声**」に満たされよ。

［第 47 偈］さらにまた、三「**悪道**（209b）**の苦をうけず**」、方便に善巧であることにより、「**難行をなさずとも、神より優れた身体**」で、八種の美徳をそなえた安らぎを得て、世人は「**ブッダたることを得られよ。**」この偈頌は、［世間］一般への廻向と言われてもふさわしいのであるが、高僧たちや賢者に結びつけるものと思われる。

3.111.3 'gro ba spyi'i don du bsngo ba

世間一般のための廻向　（k. 48）

［第 48 偈］「**すべての有情**」の最勝であるので、ブッダへの供養を先行させ、ブッダたることを得るために、「**多くの仕方ですべての等覚者（＝仏）に供養し**」、「**ブッダの不可思議な安楽**」すなわち不可思議さにより、「**つねに幸ある者となれ。**」

3.112 'jig rten las 'das pa'i don du bsngo ba

出世間のための廻向（kk. 49-50）

3.112.1 byang sems kyi [thugs dgongs rdzogs par bsngo ba]

菩薩の［願いが実現するようにとの廻向］（k. 49ab）

［第 49ab 偈］「**菩薩たちの生類のための**」広大な利益をなされる「**願い**」のように「**成就せよ。**」

3.112.2 sangs rgyas kyi [thugs dgongs rdzogs par bsngo ba]

ブッダの［願いが実現するようにとの廻向］（k. 49cd）

［第 49cd 偈］「**師父**」であるブッダが、すべての有情にとって利益と幸福を「**お考えになる**」がままに、「**有情たちのために**」、その利益は「**成就**」すなわち完全に達成「**せよ。**」

3.112.3 nyan rang gi thugs dgongs rdzogs par bsngo ba

声聞と独覚の願いが実現するようにとの廻向（k. 50）

［第 50 偈］「**独覚たち**」と「**同様に**」「**声聞たちも**」「**幸あれ**」。ここにおいて、二つのインド写本には「**神、アスラ（阿修羅）、人間によって、つねに丁重に供養されよ**」（lha dang lha min mi rnams kyis// gus pas rtag tu mchod par shog//）と出る[19]。チベットの諸写本には［この k. 50cd の訳文は］見られない。

3.12 rtsom pa po rang don du [bsngo ba]
著者の自利のための［廻向］（kk. 51-56）

3.121 rang don [phun tshogs ’grub par smon pa]
自利の円満が成就するようにとの願い（kk. 51-53）

［第 51 偈］「**私**」シャーンティデーヴァ「**もまた**」、「**妙音（＝文殊）の恩恵**」守護「**により**」、初「**歓喜地にいたるまで**」、「**つねに前生の**」すなわち［前世の］生まれの「**想起と**」、在家から出家する偉大な「**出家を**」「**得よ。**」

［第 52 偈］「**私は**」生きるための「**乏しい食料**」、すなわち得られるかぎりのもの「**によっても**」、差し当たり（210a）身体は「**力に満ちて時を過ごせ。**」「**すべての生において**」、内外の騒音から「**遠離して住むための資具を**」、ふさわしい物資を「**得よ。**」

［第 53 偈］［文殊の］尊顔に「**お目にかかりたいと願い、あるいはまた**」知らないことを「**たずねたいと願うときにも**」、守護神である「**かの師父・文殊［菩薩］に**」、間断する「**妨げがなくお目にかかれますように**」。

3.122 gzhan don phun tshogs ’grub par smon pa
利他の円満が成就するようにとの願い（kk. 54-56）

［第 54 偈］「**十方の天空の果てにもいたるすべての有情**」、すなわちすべての機会や究極の「**利益を成就するために**」「**文殊**」が菩薩「**行をなされるのように**」、「**私の所行もまた**」、まさに「**そのようにあれ。**」

［第 55 偈］それはまた、流れの途切れることのない時であり、「**虚空が存続するかぎり**」、また流転する「**世界が存続するかぎり**」「**私は存続して**」、すべての「**世界の**」残すところのない「**苦悩を**」「**滅ぼせ。**」

［第 56 偈］「**世界に苦悩が**」、大きかろうと小さかろうと、「**いかなるものがあろうとも**」、「**それらすべては私に**」果報として「**成熟せよ。**」「**菩薩の**」菩提心の「**浄行**」、すなわち「**善行すべて**」つまり一切「**によって**」[20]、すべての「**世界は**」、安楽を伴うもの、あるいは「**安楽であれ。**」

3.13 thun mong du bstan pa'i don du bsngo ba

共通の教説のための廻向（k. 57）

［第 57 偈］菩薩の行為は利他を最勝とするので、初めに利他のための廻向（＝3.1.1）が説かれ、利他にとって自利が前提になるのであるから、自利のための廻向を説いてから、共通の教説のための廻向が、「**世界の**」［苦苦・壊苦・行苦の］三種の「**苦悩**」すべてを滅ぼす「**医薬**」は、それに匹敵する他の対抗物はないのであるから「**唯一**」であり、有漏や無漏、あるいは成功や至福についての円満な「**幸福**」「**すべての源**」であり、［戒・定・慧の］三学によって、煩悩という敵を残らず調伏する、あるいは悪しき輪廻的生存の苦（210b）悩から救済するので「**教説**」である。伝承教法（阿含 *āgama）と所証法（*adhigamadharma）の二つ、あるいは能説の三蔵と所説の三学をともなって、すなわち「**［人々による］受容と尊重をともなって**」、間断なく、影像のみでなく、この世間に「**長くとどまれ。**」

3.2 byas shes drin du gzo bas bka' drin gyi phyag btsal ba

恩恵を知り、報恩として、［妙音菩薩と善友の］恩恵に対する敬礼（k. 58）

［第 58 偈］「**その［妙音菩薩の］恩恵により**」、初めに、王位から知がはなれ、清浄さを成就する知を生じさせる恩寵の神である「**妙音［菩薩］に敬意をささげる。**」「**その［善友の］恩恵により**」、私に菩提心を生んだのみでなく、次第に「**生長**」すなわち増大し、拡大させる「**善友に敬意を表する。**」

Ⅱ　プトゥンによる『入菩薩行論』第 10「廻向」章のテキスト批判

プトゥンによる、『入菩薩行論』第 10「廻向」章に対する注釈は以上のような内容である。この後に、すでに言及したように、シャーンティデーヴァからプトゥンに至るまでの、同論伝承の系譜を語る [21]。またその後には、注釈を記すに際してかれ自身が利用したインド由来の 7 つの注釈文献にも言及している [22]。ただし、かれの注釈が新本（ロデンシェーラプ訳）に対する注釈であることと、プラジュナーカラマティ注が第 10 章に対する注釈を欠くことなどの理由もあって、この第 10「廻向」章を注釈するに際して、かれが直接に援用した注釈は、その内容とかれ自身の言及をふまえると、拙稿(5), (6), (7)で訳注およびテキストととも

に考察を加えた*カルヤーナデーヴァ（10C 後半~11C 前半）、ヴァイローチャナラクシタ（11C 頃）、およびヴィブーティチャンドラ（12C 後半～13 世紀前半）による 3 注釈である。

プトゥンの注釈が出色であるのは、まず、前節からも明らかなように、適確な語釈をふくむ詳細な注釈という特徴をもつ点である。次にまた、当時入手できたすべてのチベット語訳注釈を用いるとともに、本章にも随所で言及されるように、少なくとも 2 本のインド語写本を手元に置き、チベット語訳写本の不備を正しながら、注釈を加えている点にもある。前節の訳文中に下線を付した 6 箇所（第 1, 3, 13, 20-21a, 21', 50 偈）からも明らかなように、プトゥンは新本チベット語訳とサンスクリット語写本との間に見られる内容的な相違に逐一言及する。以下では、当該の 6 偈にみるプトゥンによるこれらの言及を簡潔に総括したい。

［第 1 偈］「**さとりの行をもって荘厳されよ**（byang chub spyod pas rnam brgyan shog//, *bodhicaryāvibhūṣaṇāḥ//）とインドの写本（rgya dpe）には出る。」とある。この箇所についてプトゥンは、新本チベット語訳（ロデンシェーラプ訳）の DCPNG: byang chub spyod la 'jug par shog//（=旧本ペルツェク訳、*拙稿(1), p. 60 参照）に言及することなく、当時入手できたサンスクリット写本の読みのみを自らのチベット語訳で伝えるとともに、「荘厳」することの意味を解説する。

［第 3 偈］「**『仏の安楽を得るまでは』**…。インドの写本には**『あらゆる輪廻において、かれらの安楽は、決して消えうせることなかれ。世の人は、絶えることなく菩薩の安楽を得られよ。』**（kun du 'khor bar de rnams kyi// bde ba nam yang nyams ma gyur// 'gro ba rgyun mi 'chad pa ru// byang chub sems dpa'i bde thob gyur//, *āsaṃsāraṃ sukhajyānir mā bhūt teṣām kadācana/ bodhisattvasukhaṃ prāptuṃ bhavatv aviratam jagat//）と出る。」この箇所は、サンスクリット写本の第 3 偈全体をプトゥン自身の訳文で提示した上で、「菩薩の安楽」を語釈している。この偈頌の事情はやや複雑で、二重下線を付した箇所に旧本と新本、ならびにチベット語訳新本の DC と PNG の両系統に異読がある。また、プトゥンが独自のチベット語訳で引用したサンスクリット本の読みも、やや異なる。

まず、拙稿(1), p. 60 でふれたように、旧本（＝敦煌本、ペルツェク訳）の二重下線部は、[de dag] sangs rgyas bde thob gyi// bar du (*ābuddhasaukhyāptiṃ jyānir)…..//['gro ba] bla na med pa yi// bde ba (*anuttarasukhaṃ)…..// と出る。したがって、現行のサンスクリット本は、最初の四半偈*ābuddhasaukhyāptiṃ jyānir を āsaṃsāraṃ sukhajyānir に、また第 3 の四半偈内の冒頭 6 音節*bodhisattvasukhaṃ を anuttarasukhaṃ に変更した内容をもつ。**[付録]** に挙げた第 3 偈に明らかなように、このサンスクリット本にほぼ一致するのが、新本の DC 版の訳文である。これに

対して、PNG 版は旧本の訳文をそのまま採用しているため、現行のサンスクリット本とは不一致である。

他方、プトゥンの注釈内で言及される『入菩薩行論』の語句「**仏の安楽を得るまでは**」（sangs rgyas kyi thob kyi bar du, 204a1）に関しては、同論の PNG 版の伝承に等しい。後半偈内の*anuttarasukhaṃ/bodhisattvasukhaṃ に関する新本チベット語訳の異読についての直接の言及はなく、サンスクリット本に bodhisattvasukhaṃ とあることに独自のチベット語訳で言及するのみである。bodhisattvasukhaṃ「菩薩の安楽」の読みについては、ヴィブーティチャンドラ注も同じであり、前章に挙げた拙訳からも分かるように、プトゥンはここで同注釈の解説を踏襲している。ちなみに、カルヤーナデーヴァとヴァイローチャナラクシタは、この箇所への直接の注解を残していない。

［第 13 偈］「『**すべての生物**』すなわち生きものを『**救う**』『**光明**（'od, *ābhā）』というのは、インドの写本には『**母**（ma, *mātā ）』と出る。」この箇所は DCPNG の 5 版すべて「光明」の読みであるのに対して、サンスクリット本には「母」と出る。いずれも、すべての生物を救う同情心（dayā）の隠喩であり、プトゥンはこの相違に言及する。

［第 20-21a 偈］「『**裸の人々は衣料を、餓えた人々は食料を、渇いた人々はや美味しい飲み物を得よ。**』（第 20 偈）『**貧者らは**』すなわち貧しい人々は『**富める者であれ**』（第 21a 偈）。これらに対して、インドの写本には、『**衣類・食料・飲料・花環・白檀・装飾、すべての心に願うもの、安寧にみちびくものを得られよ。**』（第 20 偈）『「**恐れをいだく者は、恐れなき者となれ。**』（第 21a 偈）（gos dang bza' ba btung ba 'phan// phreng ba tsanda-na rgyan dang ni// yid la mngon par 'dod pa kun// phan zhing kun phan rnyed par shog// 'jigs pa rnams kyang 'jigs med gyur//）と出る。」この第 20-21a 偈の新本チベット語訳は、DCPNG の 5 版いずれも旧本（＝敦煌本）と同じ内容であり、サンスクリット本と異なる。（注 12）および［**付録**］第 20-21a 偈参照。）プトゥンは、この相違に独自のチベット語訳によって言及し、この後にヴィブーティチャンドラ注の内容を引用する。ちなみに、カルヤーナデーヴァとヴァイローチャナラクシタは、この第 20-21a 偈への注釈を残していない。

［第 21'偈］「『**病気の有情はみな**』、すべての存在するものは『**ただちに病から解放されよ。**』『**生類の病**』四百四の『**すべては**』『**あらゆる**』時に『**発症することなかれ。**』これは、インドの写本では、［次の第 22 偈冒頭詩節の］『**病める人々も健康で**』と一つ［の四半偈］に収められて現われる。」この第 21'偈は、旧本

（拙稿(2), pp. 59-60 参照）と新本チベット語訳 5 版に共通して見られ、現行のサンスクリット本には欠落する。ただし、この第 21'偈は、プトゥンの理解によれば、第 22 偈の冒頭四半偈に内容が縮約されて収められているという。この理解にしたがえば、第 22a 偈の旧本と新本チベット語訳に共通に見られる「恐れをいだく者は、恐れなき者となれ。」（*bhītāś ca nirbhayāḥ santu）を「病める人々も健康となれ」（ārogyaṃ rogiṇām astu）に変更したことになる。新本チベット語訳がテキストの変更を見逃し、旧本の訳をそのまま踏襲した一例といえようか。

［第 50 偈］「**『独覚たち』**と**『同様に』『声聞たちも』『幸あれ』**。ここにおいて、二つのインド写本には**『神、アスラ（阿修羅）、人間によって、つねに丁重に供養されよ』**（lha dang lha min mi rnams kyis// gus pas rtag tu mchod par shog//）と出る。チベットの諸写本には［この k. 50cd の訳文は］見られない。」この箇所は、新本チベット訳の不備に気づいたプトゥンが、二つのサンスクリット写本を照合したうえで、第 50 偈後半の訳を独自に補った例と考えられる[23]。

Ⅲ　プトゥンによる『入菩薩行論』第 10「廻向」章の構成理解

以上のように、注釈内容が詳しく、注釈対象とした『入菩薩行論』のテキストを批判的に検証しながら解説するプトゥンの注釈であるが、その重要性は第 I 節からも分かるように、全体の構成を詳細な科判（sa bcad）によって示している点にもある。以下では、プトゥンによる第 10「廻向」章の構成理解を確認するため、第 I 節に記した科判から、訳文と該当する偈頌番号のみをあらためて抽出する。

3.［論書の最終的な目的］
3.1 行為が果報を伴うために善根を廻向すること（kk. 1-57）
3.11 他の人の利益のための［廻向］（kk. 1-50）
3.111 世間の［ための廻向］（kk. 1-48）
3.111.1 通常人の［ための廻向］（kk. 1-41）
3.111.11 教示（kk. 1-3）
3.111.12 説明（kk. 4-41）
3.111.121 悪趣［のための廻向］（kk. 4-18）
3.111.121.1 地獄の［ための廻向］（kk. 4-16）
3.111.121.11 苦が安楽になること（kk. 4-10）
3.111.121.111 地獄一般の［苦が静まるよう願うこと］（k. 4）
3.111.121.112 ［八］寒地獄の［苦が静まるよう願うこと］（k. 5a）
3.111.121.113 ［八］熱地獄の［苦が静まるよう願うこと］(k. 5bcd)

3.111.121.114 ［それらの四方に四つずつある十六］小地獄の［苦が静まるよう願うこと］（kk. 6-8a）
3.111.121.115 共通に［地獄という］拠り所にもとづく苦が静まるよう願うこと（kk. 8bcd-10）
3.111.121.12 特に［八大］随仏子（＝菩薩）に苦を鎮めるよう願うこと（kk. 11-15）
3.111.121.121 金剛手（k. 11）
3.111.121.122 観自在（/ 観音）（k. 12）
3.111.121.123 妙音（＝文殊師利）（kk. 13-14）
3.111.121.124 他の随仏子（＝菩薩）を見る力によって苦を鎮めるよう願うこと（k. 15）
3.111.121.2 動物（畜生）の［ための廻向］（k. 17ab）
3.111.121.3 餓鬼の［ための廻向］（kk. 17cd-18）
3.111.122 善趣［のための廻向］（kk. 19-30）
3.111.122.1 望まないものから離れようにとの［願い］（kk. 19-26）
3.111.122.2 望みが成就するようにとの願い（kk. 27-30）
3.111.123 一切趣［のための廻向］（kk. 31-41）
3.111.123.1 願いの円満を得るようにとの［廻向 ］（kk. 31-39）
3.111.123.11 成就対象者が善行［を円満するようにとの廻向］（kk. 31-32）
3.111.123.12 成就の拠り所［となる有情の］生存［が円満するようにとの廻向］（k. 33）
3.111.123.13 成就の場［が円満するようにとの廻向］（kk. 34-36）
3.111.123.131 説法者に満ちた森［が円満するようにとの廻向］（k. 34）
3.111.123.132 本性清浄な大地［が円満するようにとの廻向］（k. 35）
3.111.123.133 聴聞による荘厳が円満するようにとの廻向（k. 36）
3.111.123.14 成就の摂受［が円満するようにとの廻向］（kk. 37-38）
3.111.123.15 成就の外的条件［が円満するようにとの廻向］（kk. 39-40ab）
3.111.123.2 災難が静まるようにとの廻向（kk. 40cd-41）
3.111.2 特に教えに向かう人［のための廻向］（kk. 42-47）
3.111.21 総じて僧伽の住人を伴う人［＝四衆のための廻向］（k. 42）
3.111.22 特に比丘と比丘尼［のための廻向］（kk. 43-44ab）
3.111.23 出家者一般［のための廻向］（kk. 44cd-45）
3.111.24 賢者のための廻向（kk. 46-47）
3.111.3 世間一般のための廻向 （k. 48）
3.112 出世間のための廻向（kk. 49-50）
3.112.1 菩薩の［願いが実現するようにとの廻向］（k. 49ab）

3.112.2 ブッダの［願いが実現するようにとの廻向］（k. 49cd）
3.112.3 声聞と独覚の願いが実現するようにとの廻向（k. 50）
3.12 著者の自利のための［廻向］（kk. 51-56）
3.121 自利の円満が成就するようにとの廻向（kk. 51-53）
3.122 利他の円満が成就するようにとの廻向（kk. 54-56）
3.13 共通の教説のための廻向（k. 57）
3.2 恩恵を知り、報恩として、［妙音菩薩と善友の］恩恵に対する敬礼（k. 58）

このように、プトゥンは『入菩薩行論』の最終「廻向」章を、シャーンティデーヴァが論書を著した最終的な目的（mthar phyin pa'i bya ba, 注 5）参照）を示す章と意味づけた上で、全 58 偈からなる同章の構成を詳細に語る。これはインドの注釈にも見られない特色であり、『入菩薩行論』研究に関するプトゥン注の貴重な貢献の一つといえよう。

IV　小結

以上、本稿は、これまでの関連研究（拙稿 (1)~(7) 他）をふまえ、プトゥン・リンチェンドゥプ（1290-1364）が 1338 年に著した『入菩薩行論注釈「菩提心を照明する月光」』の最終・第 10「廻向」章の内容を分析し、考察を加えた。本稿の考察により、プトゥン注の特色として、以下のような諸点を指摘することができるであろう。

第一に、プトゥン注は、拙稿(5), (6), (7)で訳注およびテキストとともに考察を加えた*カルヤーナデーヴァ（10C 後半~11C 前半）、ヴァイローチャナラクシタ（11C 頃）、およびヴィブーティチャンドラ（12C 後半～13 世紀前半）の 3 注釈を批判的に援用しながら、独自に詳しい注釈を残している点である。

第二の特色は、インド由来のこれらの注釈にも見られなかった、『入菩薩行論』のテキストに関する批判的な姿勢が顕著である点にうかがえる。第Ⅱ節に挙げた 6 偈に関しても、かれ自身が入手して確認したサンスクリット写本との異同を克明にチェックし、詳細な報告を行っている。かれ自身が本注釈末尾において、「インド写本と［インド由来の］注釈に一致しない多く［の箇所］が見られるが、ゴク［・ロデンシェーラブ］」の良い翻訳［本］を努力して探したが得られないため、意味上大きな相違がないものは知られるとおりに解説し、訂正しないと不適当なものはインド写本と注釈とに一致させて［ロデンシェーラブ訳とは］別に、［訳文を］決定した。」[24]と述べるとおりである。第Ⅱ節にもうかがえるように、新本（ロデンシェーラブ）訳は、残念ながらプトゥンも多々注記するように、不用意に旧本（ペルツェク）訳を踏襲したり、新本系のサンスクリット写本の内容

との照合が不十分であったりと、不備の多い訳本であったが、プトゥン注の具体的な言及と補訂はこの点でもきわめて貴重である。

第三に、『入菩薩行論』の構成を詳細な科判（sa bcad）をもって説明する点である。これは、他のインド由来の注釈にも見られない特色であり、入手できたすべての資料を援用しながら全体の構成を解説するもので、上記の 2 つの特色とともに、今後の『入菩薩行論』研究に寄与ところが大きいことを示している。

［注］

1) 斎藤明「シャーンティデーヴァの＜廻向＞論—新旧『入菩薩行論』最終章を中心として— (1)」『成田山仏教研究所紀要』40, 2017, pp. 57-69;　同「シャーンティデーヴァの＜廻向＞論—新旧『入菩薩行論』最終章を中心として— (2)」『成田山仏教研究所紀要』41, 2018, pp. 57-71;　同「シャーンティデーヴァの＜廻向＞論—新旧『入菩薩行論』最終章を中心として— (3)」『成田山仏教研究所紀要』42, 2019, pp. 63-83; 同「シャーンティデーヴァの＜廻向＞論—新旧『入菩薩行論』最終章を中心として— (4)」『成田山仏教研究所紀要』43, 2020, pp. 51-64; 同「シャーンティデーヴァの＜廻向＞論—新旧『入菩薩行論』最終章を中心として— (5)」『成田山仏教研究所紀要』44, 2021, pp. 37-60; 同「シャーンティデーヴァの＜廻向＞論—新旧『入菩薩行論』最終章を中心として— (6)」『成田山仏教研究所紀要』45, 2022, pp. 33-59; 同「シャーンティデーヴァの＜廻向＞論—新旧『入菩薩行論』最終章を中心として— (7)」『成田山仏教研究所紀要』46, 2023, pp. 63-98. 以下では、拙稿 (1) 等と略称する。

2) *Byang chub sems dpa'i spyod pa la 'jug pa'i 'grel pa Byang chub kyi sems gsal bar byed pa Zla ba'i 'od zer*, Bu ston *bKa' 'bum*, Lhasa Zhol edition, reprinted in Lokesh Chandra ed., *The Collected Works of Bu-ston*, Part 19 (dza), New Delhi: International Academy of Indian Culture, 1971, dza 1a-211b (Śata-Piṭaka Series 59: 181-602). 拙稿「敦煌出土アクシャヤマティ作『入菩薩行論』とその周辺」『チベットの仏教と社会』1986, pp. 79-109 (esp. 95-98); A. Saito, "Bu ston on the *sPyod 'jug* (*Bodhisattvacaryāvatāra*)," *Transmission of the Tibetan Canon* (Proceedings of the 7th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, Graz, 1995, vol. Ⅲ), Österreichische Akademie der Wissenschaften, Philosophisch-Historische Klasse, Denkschriften, 257 Band, Wien, 1997, pp. 79-85 (esp. 79-80); 拙稿「プトゥンと『入菩薩行論解説［細疏］』」『印度学仏教学研究』48-2, 2000, pp. 1030-1035 (esp. 1034-1035) 参照.

3) See P. Williams, *Altruism and Reality: Studies in the Philosophy of the Bodhicaryāvatāra*, London: Curzon Press, 1998, pp. 4-5. なお、2006 年以降、百慈蔵文古籍研究所（dPal brtsegs bod yig dpe rnying zhib 'jug khang）編、四川民族出版社から総計 4 輯・120 帙として出版されたカダム文集（*bKah' gdams gsung 'bum phyogs bsgrigs*）にも、『入菩薩行論』に対

するチベット人学僧による多くの注釈文献の存在が確認されており、今後の研究が俟たれる。

4) See Saito, *op. cit.,* “Bu ston on the *sPyod 'jug* (*Bodhisattvacaryāvatāra*),” pp. 79-80.

5) この第 10「廻向」章の科判冒頭に 3 の数字が置かれるのは、プトゥンによれば、『入菩薩行論』に三義、すなわち、［シャーンティデーヴァ師が］論書を著すことに入る動機、入るべき論書の本体、および［論書に］入る最終的な目的の三義がある中で、当該の第 10「廻向」章が第 3 の「論書の最終的な目的」を示すと意味づけられることによる。(slob dpon des mdzad pa'i *Byang chub sems dpa'i spyod pa la 'jug pa* la don gsum ste/ bstan bcos rtsom pa la 'jug pa'i rgyu/ 'jug bya bstan bcos kyi rang bzhin/ 'jug pa mthar phyin pa'i bya ba dang gsum, dza 2a1-2).「第 10 章は、善［根］を廻向し（kk.1-57）、［妙音菩薩と善友の］恩恵に対する敬礼（最終 k.58）をもって解説するもので、［論書の］最終的な目的を示すのである。」(le'u bcu pa ni/ dge ba bsngo zhing bka' drin gyi phyag 'tshal bas bshad pa mthar phyin pa'i bya ba bstan pa'o//, dza 8b6).

6) ［付録］に引用する第 3 偈の Skt.本の読み（āsaṃsāraṃ sukhajyānir……../ bodhisattvasukhaṃ …….//）は、新本（ロデンシェーラプ）訳の中でも、DC のみが対応する。PNG の訳文は旧本（=敦煌本、ペルツェク）訳をそのまま踏襲する。（拙稿 (1), p. 60, 同 (7), p. 82 参照。）プトゥンが使用した Skt.写本の読みは、現行の Skt.校訂本の読みに一致していたと推定されることと、ここでプトゥンが利用した新本『入菩薩行論』のチベット語訳が、PNG 系統の内容を伝えるものであることが分かる。

7) 「親近せよ」（'grogs par shog）は、新本の PNG の読みと同じ。［付録］の第 11 偈が示すように、Skt.本には DC の読み（'gro bar shog）が対応する。

8) ［付録］第 13 偈の Skt.: sakalajanaparitrāṇamātā dayā ca//（下線筆者）参照。プトゥン注の 'od は、旧本の読みを踏襲する新本 PNG に等しく、旧本が依拠した Skt.は、-paritrāṇam ābhā dayā ca//とあったか。

9) この箇所 (206a1) のテキストは、de ltar rigs kyi gtso bo gsum gyis mthu¨¨(上 4 点) zhi ba bye brag tu bshad nas/とあり、ラサ（ショル）版が依拠したチベット訳写本にすでに難があったと考えられる。本 15 偈に対するプトゥンの科判 nye ba'i sras gzhan mthong ba'i mthus sdug bsngal zhi bar smon pa「他の随仏子（＝菩薩）を見る力によって苦を鎮めるよう願うこと」の表現からも、gyis mthu¨¨ は gyi mthus sdug bsnal が適切か。

10) 第 16 偈は Skt.本にのみあって、旧訳本にも、また新本の PNGDC いずれのチベット語訳版本にも欠落する。プトゥン注にもこの点に関する言及はなく、注釈も施していない。ただし、ヴィブーティチャンドラ注のみは本偈に注釈を残している。拙稿 (7), pp. 68-69 参照。同注を著した 12C 後半～13 世紀前半頃には第 16 偈が付加されていたと推定されるが、プトゥンが入手したのは当該偈が欠落した写本のみであったという事情がうかがえようか。

11) 'di man chad kun la 'og gi// bdag gi bsod nams 'di yis ni// zhes pa 'di kun la sbyar ro//

(206a3-4). この構成理解は、*カルヤーナデーヴァ注に従う。拙稿 (5), p. 43 参照。

12) この箇所（Skt. kk. 20-21a）のチベット語訳はいずれの版本にも欠落し、プトン自身が以下のような Skt.写本を訳出したもの。vastrabhojanapānīyaṃ srakcandanavibhūṣaṇam/ mano'bhilasitaṃ sarvaṃ labhantāṃ hitasaṃhitam// bhītāś ca nirbhayāḥ santu. ［付録］第 20-21a 偈参照。

13) ヴィブーティチャンドラ注の当該箇所のテキストと訳文は、拙稿 (7), p. 70 参照。

14) この偈はチベット語訳の旧本および新本にあって、Skt.本に欠く。拙稿 (2), pp.59-60, 67 (n.7) 参照。

15) この四半偈 (206b6) は新本チベット語訳になく、プトン自身が Skt.写本の読み（ārogyaṃ rogiṇām astu）を訳出したもの。［付録］第 22 偈参照。

16) ［付録］第 33 偈、拙稿 (2), p. 64 (旧本第 33 偈) 参照。

17) 拙稿 (5), pp. 44-45 参照。

18) phyogs rnams thams cad gang bar shog// (208a5). この箇所の gang bar shog「満ちたものとなれ」（*-kīrṇā(ḥ)…bhavantu）は新本の DC に同じ。PNG（dga' bar shog, *ramyāḥ…bhavantu）は旧本訳に同じ。［付録］第 34 偈、拙稿 (2), p. 64 参照。

19) この第 50 偈後半は、新本チベット語訳のいずれの版本にも欠落しているため、プトゥン自身が訳出して補ったもの。拙稿(3), p. 77 (n.4) 参照。当該半偈の Skt.は devāsuranarair nityaṃ pūjyamānāḥ sagauravaiḥ//.［付録］第 50 偈参照。

20) この箇所のプトゥン注のテキストは、byang chub sems dpa' byang chub sems kyi dge ba ste/ legs spyad <u>kun te/ thams cad kyis</u> 'gro ba thams cad bde ba dang ldan pa'am bde ba la spyod par shog// (210a5)（下線筆者）とある。これに対して、第 56 偈後半の新本チベット訳 (DCPNG) および Skt.は、［付録］第 56 偈に見るように、 byang chub sems dpa'i dge <u>'dun gyis</u>// 'gro ba bde la spyod par shog//, bodhisattvaśubhaiḥ sarvair jagat sukhitam astu ca//（下線筆者）と出る。下線部の 'dun gyis をプトゥン注は、kun gyis と適切に読んでいると推定される。byang chub sems dpa'i dge 'dun gyis (*bodhisattvasaṃghaiḥ) は内容的にも韻律上も不適切。

21) See Saito, *op. cit.,* "Bu ston on the *sPyod 'jug* (*Bodhisattvacaryāvatāra*)," p. 80 (n.8).

22) *Ibid*., pp. 80-81 (n.9), 前掲拙稿「プトゥンと『入菩薩行論解説［細疏］』」p. 1031 (n.12) 参照。

23) 拙稿 (3), p. 77 (n.4) 参照。

24) rgya dpe dang 'grel pa dang mi mthun pa mang po snang yang/ rngog 'gyur bzang ma zhig 'bad de btsal yang ma rnyed pas/ don la 'gal ba chen po med pa rnams grags pa bzhin du bshad/ mi bcos su mi rung ba rnams rgya dpe dang 'grel pa dang bstun nas logs su gtan la phab/ (211a4-5). See also Saito, *op. cit*., "Bu ston on the *sPyod 'jug* (*Bodhisattvacaryāvatāra*)," p. 81.

［付録］

以下に、本稿が対象としたプトゥン作『入菩薩行論注釈「菩提心を照明する月光」』が新本『入菩薩行論』*Bodhisattvacaryāvatāra*（BSA）から引用または直接に言及する語句と推定される箇所を示すため、新本第 10 章の総計 58 の偈頌テキストと和訳を付録として掲載する。各偈頌の和訳、チベット語訳（BSA-3、ロデン・シェーラプ (1059-1109) 訳）、サンスクリット本の順に提示する。チベット語訳は、D 版を底本として CPNG の 4 本を校勘して校訂したテキストを提示する。サンスクリット本は、拙稿「シャーンティデーヴァの＜廻向＞論　―新旧『入菩薩行論』最終章を中心として― (7)」『成田山仏教研究所紀要』46, 2023, pp. 81-93 に挙げた補訂本を再掲する。第Ⅱ節に挙げたプトゥンによるサンスクリット本の異読例とその対応訳語については、下線を付す。なお、提示する偈頌訳は、新本チベット語訳およびプトゥン注を参照しつつ、基本的にサンスクリット本に依拠する。

また、プトゥンが注釈内で**引用または直接に言及する語句（第Ⅰ節の鍵括弧を付した太字箇所）については、その対応する和訳を太字で記す。**

1　**さとり**への**行**（菩提行）**に入ること**を**詳しく思念**する**私**の**浄善**、**これによって、すべての生類**は**さとりへの行を荘厳**する者であれ。
bdag gis byang chub spyod pa la//
’jug pa rnam par brtsams pa yi//
dge ba gang des ’gro ba kun//
byang chub spyod la ’jug par shog//
bodhicaryāvatāraṃ me yad vicintayataḥ śubham/
tena sarve janāḥ santu bodhicaryāvibhūṣanāḥ//

2　**すべての方位に、身心の苦難に悩まされる者がいるかぎり、かれらは私の**もろもろの**善行により、安楽と歓喜**の**海**を**得られよ。**
phyogs rnams kun na lus dang sems//
sdug bsngal nad pa ji snyed pa//
de dag bdag gi bsod nams kyis//
bde dga’ rgya mtsho thob par shog//
sarvāsu dikṣu yāvantaḥ kāyacittavyathāturāḥ/
te prāpnuvantu matpuṇyaiḥ sukhaprāmodyasāgarān//

3　輪廻の終わるまで、かれらの**安楽は**決して**消えうせることなかれ。世の人**

は、絶えることなく菩薩の安楽を得られよ。
de dag [1-]'khor ba ji srid du//
nam yang bde las[-1] nyams ma gyur//
'gro bas [2-]byang chub sems dpa'[-2] yi//
bde ba rgyun mi 'chad thob shog//
(1 =DC; PNG sangs rgyas bde thob kyi// bar du bde ba, = BSA 1, 拙稿 (1)『成田山仏教研究所紀要』40, 2017, p. 60 参照. 2 =DC; PNG bla na med pa)
āsamsāram sukhajyānir mā bhūt teṣām kadācana/
bodhisattvasukham prāptuṃ bhavatv aviratam jagat//

4　**世間に、なんであれ**諸々の地獄が**あるかぎり、そこにいる生き物たちは、安楽国**の安楽と歓喜をもって**喜ばれよ**。
'jig rten khams na dmyal ba dag//
gang dag ji snyed yod pa rnams//
de dag tu ni lus can rnams//
bde can bde bas dga' bar shog//
yāvanto nārakāḥ kecid vidyante lokadhātuṣu/
sukhāvatīsukhāmodair modantāṃ teṣu dehinaḥ//

5　**寒さに悩まされるものたちは暖熱を得よ。熱に悩まされるものたちは清涼**であれ。**菩薩**の**大雲から生じた海のような水によって**。
[1-]grang bas[-1] nyam[2] thag dro thob shog//
byang chub sems dpa'i sprin chen las//
byung ba'i chu bo mtha' yas kyis//
tsha bas nyam[3] thag bsil bar shog//
(1 =DCPG; N grangs pas. 2 =DC; PNG nyams. 3 =DC; PNG nyams)
śītārtāḥ prāpnuvantūṣṇam uṣṇārtāḥ santu śītalāḥ/
bodhisattvamahāmeghasaṃbhavair jalasāgaraiḥ//

6　**刀葉**の**森**も、かれらには**歓喜の森の輝きあれ。**また、刺のある綿の**シャールマリ樹も如意樹となれ。**
ral gri lo ma'i nags tshal yang//
de la [1-]dga' tshal sdu gur[-1] shog//
shal ma li[2] yi sdong po yang//
dpag bsam shing du 'khrungs par shog//
(1 =PNG; DC candana nags stug. 2 =PNG; DC ri)

asipatravanaṃ teṣāṃ syān nandanavanadyutiḥ/
kūṭaśālmalivṛkṣāś ca jāyantāṃ kalpapādapāḥ//

7 雁、鴨、鵞鳥、白鳥などの**愛らしく美しい鳴き声**をともない、大きな**蓮の香り**にみちた諸々の池により、地獄の諸方は**麗しいものとなれ。**
mthing[1] ril ngur pa dag dang ngang pa dang//
bzhad[2] sogs skad snyan ’byin pas mdzes gyur cig//
padma dri bsung che ldan mtsho dag gis//
dmyal ba’i sa phyogs dag ni nyams dgar shog//
(1 =PNG; DC ’thing. 2 =DC; PNG gzhad)
kādambakāraṇḍavacakravākahaṃsādikolāhalaramyaśobhaiḥ/
sarobhir uddāmasarojagandhair bhavantu hṛdyā narakapradeśāḥ//

8 **炭の堆積**は**宝珠の堆積であれ。**熱地は**水晶の床であれ。**衆合［地獄］の山々も、**善逝に満ち**た供養の殿堂となれ。
sol phung de yang[1] rin chen phung por gyur//
sa bsregs[2] shel gyi sa gzhi [3]bstar bar[-3] shog//
bsdus ’joms ri bo rnams kyang mchod pa yi//
gzhal med khang gyur bde gshegs gang bar shog//
(1 =PNG; DC dag. 2 =CPNG; D bsrigs. 3 =DC; PNG bstan par)
so ’ṅgārāśir maṇirāśir astu taptā ca bhūḥ sphāṭikakuṭṭimaṃ syāt/
bhavantu saṃghatamahīdharāś ca pūjāvimānāḥ sugataprapūrṇāḥ//

9 **炭火**に**焼かれた石**と**剣の雨は、今からは花の雨**であれ。またこの、**剣による相互の闘いも今、遊戯のための花の闘いであれ。**
mdag ma rdo bsregs mtshon gyi char pa dag//
deng nas bzung[1] ste me tog char par gyur//
phan tshun mtshon gyis ’debs[2] pa de yang ni//
deng nas rtse phyir me tog ’phen par shog//
(1 =DC; PNG gzung. 2 =DCPG; N ’dabs)
aṅgārataptopalaśastravṛṣṭir adya prabhṛty astu ca puṣpavṛṣṭiḥ/
tac chastrayuddhaṃ ca paraspareṇa krīḍārtham adyāstu ca puṣpayuddham//

10 **すべての肉が落ち、ジャスミンのように**白い骨の身体で［地獄の］**ヴァイタラニー河**の**火のよう**な水に**沈む者たちは、私の善行の力によって、神の身体を得て、神妃たちとともに**［天上のガンジスたる］**マンダーキニー河**

に住まう者となれ。
chu bo rab med me dang[1] ’dra nang bying ba dag//
sha kun zhig gyur rus gong me tog [2]-kun-da’i-[2] mdog//
bdag gi dge ba’i stobs kyis lha yi lus thob nas//
lha mo rnams dang lhan cig dal gyis ’bab gnas shog//
(1 =PNG; DC dong. 2 =PNG: D kunda’i, C ku-nda’i)
patitasakalamāṃsāḥ kundavarṇāsthidehā
dahanasamajalāyāṃ vaitaraṇyāṃ nimagnāḥ/
mama kuśalabalena prāptadivyātmabhāvāḥ
saha suravanitābhiḥ santu mandākinīsthāḥ//

11 **ヤマ（閻魔）の従者**や、**恐ろしい烏と禿鷲**は、ここにおいて突然、**あまねく闇**が**消えさ**ったのを、**恐れ慄き**ながら見よ。「この、**安楽**と**歓び**をもたらす美しい**光明は誰の力か**」**といって上方を眺め、虚空の中**で光り**輝く金剛手**［菩薩］**を見て、歓喜の衝撃により悪業が消えうせ、その**［金剛手菩薩］とともに［出て］行かれよ。
ci phyir ’dir ni gshin rje’i mi dang khra dang bya rgod mi bzad rnams skrag byed//
kun nas mun bsal bde dga’ bskyed pa’i mthu bzang ’di ko su yi mthu snyam ste//
gyen du bltas na nam mkha’i dkyil na phyag na rdo rje ’bar ba bzhugs mthong nas//
rab tu dga’ ba’i shugs kyis sdig dang bral nas de dang[1] lhan chig [2]-’gro bar-[2] shog//
(1 =DC; PNG dag. 2 =DC; PNG ’grogs par)
trastāḥ paśyantv akasmād iha yamapuruṣāḥ kākagṛdhrāś ca ghorā
dhvāntaṃ dhvastaṃ samantāt sukharatijananī kasya saumyā prabheyam/
ity ūrdhvaṃ prekṣamānā gaganatalagataṃ vajrapāṇiṃ jvalantaṃ
dṛṣṭvā prāmodyavegād vyapagataduritā yāntu tenaiva sārdham//

12 **香水と混ざることにより**、蓮**華**の**雨**は**ふれ**。「幸せに」と、［その雨が］**地獄の炭火をチルチルと消すのを見よ**。「これは何ごとだ」と、**突然の幸せに歓喜**する**地獄に棲む者たちは、蓮華手**［菩薩］**を見よ。**
me tog char pa spos [1]-chu dang ’dres ’babs-[1] pa yis//
dmyal ba’i me mdag chil chil gsod pa[2] mthong gyur nas//
glo bur bde bas tshim pa ’di ci bsam[3] pa dang//

sems dmyal rnams kyis phyag na padma mthong bar shog//
(1 =DC; PNG chu ’dres pa bab. 2 =PNG; DC par. 3 =DC; PNG bsams)
patatu kamalavṛṣṭir gandhapānīyamiśrāc
cham iti narakavahniṃ dṛśyatāṃ nāśayantī/
kim idam iti sukhenāhlāditānām akasmād
bhavatu kamalapāṇer darśanaṃ nārakāṇām//

13 **友らよ、来られよ。速やかに来られよ。怖れを除かれよ。われわれは生きている。**かの、われわれのためにやって来た、火を怖れさせない有髻の童子（＝文殊師利童子，妙音菩薩）は誰か。**その威神力**によりすべての**災難が消えうせ、歓喜の奔流**が起こった。**菩提心**と、**すべての生物**の救いの母である**同情心とが生じた。**
grogs dag ’jigs pa bor[1] la rings par tshur shog ’u bu’i thad du ni//
gang gi mthu yis sdug bsngal [2-]thams cad bral zhing[-2] dga’ ba’i shugs[3] phyin la//
’gro ba [4-]kun skyob byang chub sems dang ’od dang[-4] brtse ba skyes gyur pa//
gzhon nu zur phud can ’bar ’jigs pa med par byed pa ci zhig phyin//
(1 =DC; PNG ’or. 2 =PNG; DC kun bral. 3 =DC; PNG dbugs. 4 =PNG; DC kun nas yongs skyob byang chub sems dang)
āyātāyāta śīghraṃ bhayam apanayata bhrātaro jīvitāḥ smaḥ
saṃprāpto ’smākam eṣa jvaladabhayakaraḥ ko ’pi cīrīkumāraḥ/
sarvaṃ yasyānubhāvād vyasanam apagataṃ prītivegāḥ pravṛttāḥ
jātaṃ saṃbodhicittaṃ sakalajanaparitrāṇamātā dayā ca//

14 **君たちはこの方を見よ。**その**蓮華のような脚**は**幾百の神々の宝冠によって供養され、憐憫によって潤んだ眼をもち、頭上には、**賛歌に巧みな**幾千の天女**の**心地よい**歌声ひびく楼閣から、多くの花が**激しい雨とふりそそぐ**のを。このような妙音［菩薩］を見て、**地獄の者たち**は今、**歓声を上げよ。**
khyod kyi lha brgya’i cod pan dag gis zhabs kyi padma la mchod cing//
thugs [1-]rjes brlan[-1] spyan[2] dbu la me tog du ma’i tshogs kyi[3] char ’bab pa//
khang brtsegs[4] yid ’ong lha mo stong phrag bstod dbyangs sgrogs ldan[5] ’di ltos zhes//
’jam dbyangs de ’dra mthong nas da ni sems dmyal ca[6] co ’don par shog//
(1 =PNG; DC rje’i rlan. 2 =DC; PNG can. 3 =PNG; DC kyis. 4 =DC; PNG rtsegs. 5 =DC; PNG pa. 6 =DC; PNG ku)

paśyantv enaṃ bhavantaḥ suraśatamukuṭair arcyamānāṅghripadmaṃ
kāruṇyād ārdradṛṣṭiṃ śirasi nipatitānekapuṣpaughavṛṣṭim/
kūṭāgārair manojñaiḥ stutimukharasurastrīsahasropagītair
dṛṣṭvetthaṃ mañjughoṣaṃ bhavatu kalakalaḥ sāṃprataṃ nārakānām//

15　**このように、私の善行によって、**かれら**地獄の者たちは、**心地よく**涼しく香りよい風の雨**をともなう、**普賢**［菩薩］**を筆頭とする障害のない**諸**菩薩**の群**雲**を**見て歓喜せよ。**
de ltar bdag gi dge rtsas kun tu[1] bzang la sogs//
byang chub sems dpa' sgrib pa med sprin bde ba dang//
bsil zhing dri zhim [2]-ngad ldang-[2] char pa 'bebs mthong nas//
sems can dmyal ba de dag mngon par dgar[3] gyur cig//
(1 =PNG; DC du. 2 =PNG; DC dang ldan. 3 =PNG; DC dga')
iti matkuśalaiḥ samantabhadrapramukhānāvṛtabodhisattvameghān/
sukhaśītasugandhavātavṛṣṭīn abhinandantu vilokya nārakās te//

16　地獄の者たちの激しい苦痛と恐怖は和らげ。すべての悪趣（＝地獄）に棲む者たちは、悪趣から解放されよ。
śāmyantu vedanās tīvrā nārakāṇāṃ bhayāni ca/
durgatibhyo vimucyantāṃ sarvadurgativāsinaḥ//

17　**動物（畜生）**らの、**たがいに**喰いあう**恐怖は消え失せよ。餓鬼らは、北クル（北倶盧洲）の人々**のように**幸せであれ。**
dud 'gro rnams ni gcig la gcig//
za ba'i 'jigs dang bral bar shog//
sgra mi snyan pa'i mi bzhin du//
yi dags rnams ni bde bar gyur1//
(1 =DC; PNG 'gyur)
anyonyabhakṣaṇabhayaṃ tiraścām apagacchatu/
bhavantu sukhinaḥ pretā yathottarakurau narāḥ//

18　**餓鬼たちは、**聖**観自在の手から滴る乳の流れにより満たされ**よ、**清められ**よ、つねに**清涼であれ。**
'phags pa spyan ras gzigs dbang gi//
phyag nas 'bab pa'i 'o rgyun gyis//
yi dags rnams ni tshim byas shing//

khrus byas rtag tu bsil bar shog//
saṃtarpyantāṃ pretāḥ snāpyantāṃ śītalā bhavantu sadā/
āryāvalokiteśvarakaragalitakṣīradhārābhiḥ//

19 盲人たちは色かたちを見よ、聾者は**つねに［音を］聞け。妊婦**たちは、マーヤー（摩耶）夫人のように**痛みなく分娩されよ。**
long ba rnams kyis gzugs[1] mthong zhing//
'on pas rtag tu sgra thos shog//
lha mo sgyu 'phrul [2-]bzhin du ni[-2]//
sbrum ma'ang gnod med btsa' bar shog//
(1 =PNG; DC mig. 2 =PNG; DC ji bzhin du)
andhāḥ paśyantu rūpāṇi śṛṇvantu badhirāḥ sadā/
garbhiṇyaś ca prasūyantāṃ māyādevīva nirvyathāḥ//

20 衣類・食料・飲料・花環・白檀・装飾、すべての心に願うもの、安寧にみちびくものを得られよ。
gcer bu rnams kyis gos dag dang//
bkres pa rnams kyis zas dang ni//
skom pa rnams kyis chu dag dang//
btung ba zhim po thob par shog//
vastrabhojanapānīyaṃ srakcandanavibhūṣaṇam/
mano'bhilasitam sarvam labhantām hitasamhitam//（拙稿 (2)『成田山仏教研究所紀要』41, 2018, p. 67, n. 6 参照）

21 恐れをいだく者は、恐れなき者となれ。悲嘆にくれる人々は、喜びを得る者となれ。不安におびえる人々は、不安のない意志堅固を成就する者となれ。
bkren[1] pa rnams kyis nor thob shog//
mya ngan nyam thag dga' thob shog//
yid chad rnams kyang yid sos shing//
brtan pa phun sum tshogs par shog//
(1 =DC; PNG bkres. 拙稿(2)『成田山仏教研究所紀要』41, 2018, p. 59 参照)
bhītāś ca nirbhayāḥ santu śokārtāḥ prītilābhinaḥ/
udvignāś ca nirudvegā dhṛtimanto bhavantu ca//

21' 病気の有情はみな、ただちに病から解放されよ。生類の病すべては、けっ

て発症することなかれ。
sems can nad pa ji snyed pa//
myur du nad las thar gyur cig//
'gro ba'i nad ni ma lus pa//
rtag tu 'byung ba med par shog//
（拙稿 (2)『成田山仏教研究所紀要』41, 2018, pp. 59-60 参照）

22　恐れをいだく者は、恐れなき者となれ。（/ 病める人々は健康になれ。）すべての束縛から解放されよ。力失せた人々は、活力ある者となり、互いに愛情ふかい者となれ。
[1-]skrag pa rnams ni 'jigs med shog//[-1]
bcings pa rnams ni grol bar gyur[2]//
mthu med rnams ni mthu ldan zhing//
[3-]phan tshun sems ni[-3] mnyen gyur cig//
（1 =21a: bhītāś ca nirbhayāḥ santu. Cf. 拙稿 (2)『成田山仏教研究所紀要』41, 2018, pp. 59-60. 2 =PNG; DC 'gyur. 3 =PNG; DC sems ni phan tshun）
ārogyam roginām astu mucyantāṃ sarvabandhanāt/
durbalā balinaḥ santu snigdhacintāḥ paraṃparam//

23　道を行くすべての人々にとって、すべての方位は恵み多いものであれ。かれらが目的をもって行くとき、そ［の目的］はたやすく成就せよ。
'gron[1] pa dag ni thams cad la//
phyogs rnams thams cad bde bar shog//
gang gi don du 'gro byed pa//
de 'bad mi dgos grub gyur cig//
（1 =PNG; DC 'dron）
sarvā diśaḥ śivāḥ santu sarveṣāṃ pathivartināṃ/
yena kāryeṇa gacchanti tad ayatnena sidhyatu//

24　小舟や大船に乗る人々は、願いがかなう者であれ。安全に岸に到着して、親族とともに歓ばれよ。
gru dang gru chen zhugs pa rnams//
yid la bsam[1] pa grub gyur te//
chu yi ngogs su bder phyin nas//
gnyen dang lhan cig dga' bar shog//
（1 =DC; PNG bsams）

nauyānapātrā[1]rūḍhāś ca santu siddhamanorathāḥ/
kṣemeṇa kūlam āsādya ramantāṃ saha bandhubhiḥ/
(1 BCA nauyānayātrā-; read nauyānapātrā- = T260, 264. T261 nauyānapātra-)/

25 荒野の険しい道に迷いこんだ人々は、隊商に出逢えよ。倦みつかれることなく進め。盗賊や虎などの怖れなしに。
mya ngan lam gol ’khyams pa rnams//
’gron[1] pa dag[2] dang phrad gyur nas//
chom rkun stag sogs ’jigs med par//
mi ngal bde blag[3] ’dong bar shog//
(1 =PNG; DC ’dron. 2 =DC; PNG rnams, cf. 23a. 3 =DCPG; N blags)
kāntāronmārgapātitā labhantāṃ sārthasaṃgatim/
aśrameṇa ca gacchantu cauravyāghrādinirbhayāḥ//

26 神々は、病や森林などの危険な場所に眠る者、酔った者、酩酊した者や、身寄りのない子や老人たちを保護されよ。
dgon sogs lam med nyam nga bar//
byis pa rgan po mgon med pa//
gnyid log myos shing rab myos rnams//
lha dag [1-]bsrung ba[-1] byed par shog//
(1 =PNG; DC srung bar)
suptamattapramattānāṃ vyādhyāraṇyādisaṃkaṭe/
anāthabālavṛddhānāṃ rakṣāṃ kuruvantu devatāḥ//

27 すべての不遇から解放され、信と智慧と情けをもち、食と振る舞いをそなえ、つねに前生を想起する者であれ。
mi dal[1] kun las thar pa dang//
dad dang shes rab brtse ldan zhing//
zas dang spyod pa phun tshogs nas//
rtag tu tshe rabs dran gyur cig//
(1 =PN; DCG ngal)
sarvākṣaṇavinirmuktāḥ śraddhāprajñākṛpānvitāḥ/
ākārācārasaṃpannāḥ santu jātismarāḥ sadā//

28 あたかも虚空蔵［菩薩］のようになるまで、尽きることのない資財をもつ者となれ。争いなく、憂いなく、自立して行う者であれ。

thams cad nam mkha'i mdzod bzhin du//
longs spyod chad pa med par shog//
rtsod pa med cing 'tshe med par//
rang dbang du ni spyod par shog//
bhavantv akṣayabhogāś ca yāvad gaganagañjavat/
nirdvandvā nirupāyāsāḥ santu svādhīnavṛttayaḥ//

29　**気力の乏しい有情らは、気力漲る者となれ。醜い苦行者たちは美しさをそなえた者となれ。**
sems can gzi brjid chung ngu gang//
de dag gzi brjid chen por shog//
dka' thub can gang gzugs ngan pa//
gzugs bzang phun sum tshogs gyur cig//
alpaujasaś ca ye sattvās te bhavantu mahaujasaḥ/
bhavantu rūpasaṃpannā ye virūpās tapasvinaḥ//

30　**世の女性たちはみな、男性となれ。下賤な人々は高貴さを得た者となれ。ただしかし、慢心をも克服した者となれ。**
'jig rten bud med ji snyed pa//
de dag skyes pa nyid gyur cig//
ma rabs rnams ni mtho thob cing//
nga rgyal dag kyang bcom par shog//
yāḥ kāścana striyo loke puruṣatvaṃ vrajantu tāḥ/
prāpnuvantūccatāṃ nīcā hatamānā bhavantu ca//

31　**私のこの福徳により、すべての有情は残りなく、すべての罪悪をやめ、つねに善行をなせ。**
bdag gi bsod nams 'di yis ni//
sems can thams cad ma lus pa//
sdig pa thams cad spangs nas ni//
rtag tu dge ba byed[1] par shog//
(1 =DC; PNG spyod)
anena mama puṇyena sarvasattvā aśeṣataḥ/
viramya sarvapāpebhyaḥ kurvantu kuśalaṃ sadā//

32　**菩提心を捨てず、菩提行に専念する人々は、諸仏に摂取され、魔の所業か**

ら遠ざかれよ。
byang chub sems dang mi ’bral zhing//
byang chub spyod la gzhol ba dang//
sangs rgyas rnams kyis yongs gzung[1] zhing//
bdud kyi las rnams spang bar shog//
(1 =DC; PNG bzung)
bodhicittāvirahitā bodhicaryāparāyaṇāḥ/
buddhaiḥ parigṛhītāś ca mārakarmavivarjitāḥ//

33 これらすべての有情は、寿命も無量となれ。つねに幸せに生きよ。「死」の語も耳にすることなかれ。
sems can de dag thams cad ni//
tshe yang dpag med ring bar shog//
rtag tu bde bar ’tsho ’gyur zhing//
’chi ba’i sgra yang [1-]grag ma gyur[-1]//
(1 =DCPNG. Cf. 拙稿 (2)『成田山仏教研究所紀要』41, 2018, p. 64)
aprameyāyuṣaś caiva sarvasattvā bhavantu te/
nityaṃ jīvantu sukhitā mṛtyuśabdo ’pi naśyatu //

34 すべての方位は、教法の心地よい響きをもつ如意樹の園林をともなって喜ばしいものとなれ。ブッダとブッダの本質をもって生まれた子（＝仏子、菩薩）に満ちたものとなれ。
dpag bsam shing gi skyed mos tshal//
sangs rgyas dang ni sangs rgyas sras//
chos [1-]snyan sgrogs[-1] pas gang ba yis//
phyogs rnams thams cad dga’[2] bar shog//
(1 =DC; PNG nyan sgrog. 2 =PNG; DC gang)
ramyāḥ kalpadrumodyānair diśaḥ sarvā bhavantu ca/
buddhabuddhātmajakīrṇā dharmadhvanimanoharaiḥ//

35 大地はあらゆるところ砂利などがなく、手のひらのように平らで柔らかく、瑠璃を本質とするものとなれ。
thams cad du yang sa gzhi dag//
gseg ma la sogs med pa dang//
lag mthil [1-]ltar mnyam[-1] vai-ḍūrya’i//
rang bzhin ’jam por gnas par gyur//

(1 =PNG; DC mnyam pa)
śarkarādivyapetā ca samā pāṇitalopamā/
mṛdvī ca vaiḍūryamayī bhūmiḥ sarvatra tiṣṭhatu//

36　菩薩の大集会は、あまねく坐を占めよ。みずからの輝きにより大地を荘厳されよ。
'khor gyi dkyil 'khor yod dgur yang//
byang chub sems dpa' mang po dag//
rang gi legs pas sa steng dag//
brgyan par mdzad pas bzhugs gyur cig//
bodhisattvamahāparṣanmaṇḍalāni samantataḥ/
niṣīdantu svaśobhābhir maṇḍayantu mahītalam//

37　教法の響きは、すべての生き物によって、絶え間なく聴かれよ。鳥たちから、すべての樹木から、光から、そして虚空からも。
lus can kun gyis[1] bya dang ni//
shing dang 'od zer thams cad dang//
nam mkha' las kyang chos kyi sgra//
rgyun mi 'chad par thos par shog//
(1 =DC; PNG gyi)
pakṣibhyaḥ sarvavṛkṣebhyo raśmibhyo gaganād api/
dharmadhvanir aviśrāmaṃ śrūyatāṃ sarvadehibhiḥ//

38　かれらはつねに、ブッダとブッダの子（仏子、＝菩薩）に遇われよ。果てしない供養の雲をもって、世界の師（＝ブッダ）を供養されよ。
de dag rtag tu sangs rgyas dang//
sangs rgyas sras dang phrad gyur cig//
mchod pa'i sprin ni mtha' yas pas//
'gro ba'i bla ma mchod par shog//
buddhabuddhasutair nityaṃ labhantāṃ te samāgamam/
pūjāmeghair anantaiś ca pūjayantu jagadgurum//

39　神はふさわしい時節に雨を降らされよ。そして穀物は稔り豊かになれ。世人もまた繁栄せよ。王は正しくあれ。
lha yang dus su char 'bebs shing//
lo tog phun sum tshogs par shog//

rgyal po chos bzhin byed gyur cig//
’jig rten dag kyang dar bar shog//
devo varṣatu kālena śasyasaṃpattir astu ca/
sphīto bhavatu lokaś ca rājā bhavatu dhārmikāḥ//

40 **薬草は効力あれ。真言**は**唱える**人々に**結果をもたらせ**。**ダーキニー（鬼女）やラークシャサ（羅刹）ら**は**悲心に満ちたものとなれ。**
sman rnams mthu dang ldan pa dang//
gsang sngags bzlas brjod ’grub[1] par shog//
mkha’ ’gro srin po la sogs pa//
snying rje’i sems dang ldan gyur cig//
(1 =PNG; DC grub)
śaktā bhavantu cauṣadhyo mantrāḥ sidhyantu jāpinām/
bhavantu karuṇāviṣṭā ḍākinīrākṣasādayaḥ//

41 **いかなる有情も苦しむことなかれ。**罪あることなかれ。病あることなかれ。卑劣であることなかれ。**軽蔑されること**なかれ。**いかなる人も落胆していることなかれ。**
sems can ’ga’ yang sdug ma gyur//
[1-]sdig par ma gyur na ma gyur//[-1]
’jigs dang brnyas par[2] mi ’gyur zhing//
’ga’ yang yid mi bde ma gyur//
(1 =PNG; DC om. 2 =DC; PNG pa)
mā kaścid duḥkhitaḥ sattvo mā pāpī mā ca rogitaḥ/
mā hīnaḥ paribhūto vā mā bhūt kaścic durmanāḥ//

42 **僧院は**［経典の］**読誦や学習に満ちて栄えよ。つねに僧伽の和合し、僧伽の目的も成就せよ。**
gtsug lag khang rnams klog pa dang//
kha ton[1] gyis rgyas[2] legs gnas shog//
rtag tu dge ’dun mthun pa dang//
dge ’dun don yang ’grub par shog//
(1 =PNG; DC thon. 2 =PNG; DC brgyan)
pāṭhasvādhyāyakalilā vihārāḥ santu susthitāḥ/
nityaṃ syāt saṃghasāmagrī saṃghakāryaṃ ca sidhyatu//

43　**比丘たちは、遠離をえて学処を愛せよ。すべての散乱心をはなれ、ふさわしい心で瞑想修習せよ。**
bslab pa ’dod pa’i dge slong dag//
dben pa dag kyang thob par shog//
g-yeng ba thams cad spangs[1] nas ni//
sems ni las rung sgom[2] gyur cig//
(1 =DC; PNG spang. 2 =DC; PNG bsgom)
vivekalābhinaḥ santu śikṣākāmāś ca bhikṣavaḥ/
karmaṇyacittā dhyāyantu sarvavikṣepavarjitāḥ//

44　**比丘尼たちは**［僧衣や食などを］**得て、口論や煩い**を**はなれてあれ。**また、**すべての出家者は戒めを犯すことなかれ。**
dge slong ma rnams rnyed ldan zhing//
’thab dang gnod[1] pa spang bar shog//
de bzhin rab tu byung ba kun//
tshul khrims nyams pa med gyur cig//
(1 =DC; PNG rtsod)
lābhinyaḥ santu bhikṣuṇyaḥ kalahāyāsavarjitāḥ/
bhavantv akhaṇḍaśīlāś ca sarve pravrajitās tathā//

45　**悪い行ないを習慣とする**人々は、［その行為と結果に］**恐れおののき、つねに罪悪を滅ぼす**ことを喜ぶ者であれ。**善い生存をも得て、そこで誓いを全うせよ。**
tshul khrims ’chal pas yid byung nas//
rtag tu sdig pa zad byed shog//
bde ’gro dag kyang thob gyur nas//
der yang brtul zhugs mi nyams shog//
duḥśīlāḥ santu saṃvignāḥ pāpakṣayaratāḥ sadā/
sugater lābhinaḥ santu tatra cākhaṇḍitavratāḥ//

46　**賢者たちは、歓待**され、供養を受け、**施物**をもって生きる者であれ。**［心の］流れは清浄となり、あらゆる方向に名声**が知れわたるようになれ。
mkhas pa rnams ni bkur ba dang//
bsod snyoms dag kyang rnyed par shog//
rgyud ni yongs su dag pa dang//
phyogs rnams kun tu grags par shog//

paṇḍitāḥ satkṛtāḥ santu lābhinaḥ paiṇḍapātikāḥ/
bhavantu śuddhasaṃtānāḥ sarvadikkhyātakīrtayaḥ//

47 **悪道の苦を受けず、難行をなさずとも**、世人は、ただ一つの**神**のような**身体で**、速やかに**ブッダたることを得られよ。**
ngan song sdug bsngal ma[1] myong zhing//
dka'[2] ba spyad[3] pa med par yang//
lha bas lhag pa'i lus kyis ni//
de dag sangs ryas myur 'grub shog//
(1 =DC; PNG mi. 2 =DCNG; P dga'. 3 =DPNG; C spyod)
abhuktvāpāyikaṃ duḥkhaṃ vinā duṣkaracaryayā/
divyenaikena kāyena jagad buddhatvam āpnuyāt//

48 **すべての等覚者（＝仏）**は、**すべての有情**によって、**多くの仕方で供養**されよ。**ブッダの不可思議な安楽**をもって、**つねに幸ある者となれ**。
sems can kun gyis lan mang du//
sangs rgyas thams cad mchod byed cing//
sangs rgyas bde ba bsam yas kyis//
rtag tu bde dang ldan gyur cig//
pūjyantāṃ sarvasaṃbuddhāḥ sarvasattvair anekadhā/
acintyabauddhasaukhyena sukhinaḥ santu bhūyasā//

49 **菩薩たちの生類のための願いは成就せよ。**かの**師主**たちが**お考えになる**ところは、**有情たちのために成就せよ。**
byang chub sems dpa' rnams kyi[1] ni//
'gro don thugs la dgongs 'grub shog//
mgon po yis ni gang dgongs pa//
sems can rnams la de 'byor shog//
(1 =PNG; DC kyis)
sidhyantu bodhisattvānāṃ jagadarthamanorathāḥ/
yac cintayanti te nāthās tat sattvānāṃ samṛdhyatu//

50 **同様に独覚たちも幸あれ、声聞たちも**また。**神、アスラ（阿修羅）、人間によって、つねに丁重に供養されよ。**
de bzhin rang sangs rgyas rnams dang//
nyan thos rnams kyang bde gyur cig//

pratyekabuddhaḥ sukhino bhavantu śrāvakās tathā/
devāsuranarair nityam pūjyamānāḥ sagauravaiḥ//

51　妙音（＝文殊）の恩恵により、私もまたつねに前世の想起と出家とを得よ。歓喜地にいたるまで。
bdag kyang ’jam dbyangs bka’ drin gyis//
sa rab dga’ ba thob [1-]bar du[-1]//
rtag tu tshe rabs dran pa dang//
rab tu byung ba thob par shog//
(1 =DPNG; C par tu)
jātismaratvaṃ pravrajyām ahaṃ ca prāpnuyāṃ sadā/
yāvat pramuditāṃ bhūmiṃ mañjughoṣaparigrahāt//

52　どれほど乏しい食料によっても、私は力に満ちて時を過ごせ。すべての生において、遠離して住むための資具を得よ。
bdag ni kha zas gyi[1] nas kyang//
nyams dang ldan zhing ’tsho bar shog//
tshe rabs kun tu dben gnas pa[2]//
phun sum ldan pa[3] thob par shog//
(1 =DCPN; G kyi. 2 =PNG; DC par. 3 =DC; PNG pa’ang)
yena tenāśanenāhaṃ yāpayeyaṃ balānvitaḥ/
vivekavāsasāmagrīṃ prāpnuyāṃ sarvajātiṣu//

53　お目にかかりたいと願い、あるいはまた何かをたずねたいと願うとき、私はかの師主・文殊［菩薩］に妨げなくお目にかかれますように。
gang tshe blta bar ’dod [1-]pa ’am[-1]//
cung zad dri bar ’dod na yang//
mgon po ’jam dbyangs de nyid ni//
gegs med par yang mthong bar shog//
(1 =CPNG; D pa’am)
yadā ca draṣṭukāmaḥ syāṃ praṣṭukāmaś ca kiṃcana/
tam eva nāthaṃ paśyeyaṃ mañjunātham avighnataḥ//

54　十方の天空の果てにもいたるすべの有情の利益を成就するために、文殊が行をなされるように、私の所行もまたそのようにあれ。
phyogs bcu’i[1] nam mkha’i mthas gtugs pa’i//

sems can kun don bsgrub pa'i phyir//
ji ltar 'jam dbyangs spyod mdzad pa//
bdag gi spyod pa'ang de 'drar shog//
(1 =DC; PNG bcu)
daśadigvyomaparyantasarvasattvārthasādhane/
yathā carati mañjuśrīḥ saiva caryā bhaven mama//

55 **虚空が存続するかぎり**、また**世界が存続するかぎり**、**私は存続して、世界の苦悩を滅ぼせ。**
ji srid nam mkha' gnas pa dang//
'gro ba ji srid gnas gyur pa//
de srid bdag ni gnas gyur nas[1]//
'gro ba'i sdug bsngal sel bar shog//
(1 =DC; PNG te)
ākāśasya sthitir yāvad yāvac ca jagataḥ sthitiḥ/
tāvan mama sthitir bhūyāj jagadduḥkhāni nighnataḥ//

56 **世界にいかなる苦悩があろうとも、そのすべては私に成熟せよ。**そして、**菩薩のすべての浄行によって、世界は安楽であれ。**
'gro ba'i sdug bsngal gang ci'ang[1] rung//
de kun bdag la smin gyur cig//
byang chub sems dpa'i dge 'dun gyis//
'gro ba bde la spyod par shog//
(1 =DCPN; G ci 'ang)
yat kiṃcij jagato duḥkhaṃ tat sarvaṃ mayi pacyatām/
bodhisattvaśubhaiḥ sarvair jagat sukhitam astu ca//

57 **世界の苦悩**に対する**唯一**の**医薬**であり、**すべての**繁栄と**幸福**の**源**である**教説**は、**［人々による］受容と尊重をともなって、長くとどまれ。**
'gro ba'i sdug bsngal sman gcig pu[1]//
bde ba thams cad 'byung ba'i gnas//
bstan pa rnyed dang bkur sti dang//
bcas te yun ring gnas gyur cig//
(1 =DPNG; C bu.)
jagadduḥkhaikabhaiṣajyaṃ sarvasaṃpatsukhākaram/
lābhasatkārasahitaṃ ciraṃ tiṣṭhatu śāsanam//

58　**妙音［菩薩］に敬意をささげる。その［妙音菩薩の］恩恵により**清浄な知がある。**善友に敬意を表する。その［善友の］恩恵により**それ（清浄な知）は**生長**する。

gang gi drin gyis dge blo ’byung//
’jam pa’i dbyangs la phyag ’tshal lo//
gang gi drin gyis bdag dar ba//
dge ba’i bshes la’ang[1] bdag phyag ’tshal//
(1 =DCPN; G la ’ang)
mañjughoṣaṃ namasyāmi yatprasādān matiḥ śubhā/
kalyāṇamitraṃ vande ’haṃ yatprasādāc ca vardhate//

訂正表（拙稿 (7) に挙げたテキストおよび訳文）

［テキスト］

偈頌番号	拙稿 (7) の読み	訂正
15	sems can	**sems can**

［訳文］

偈頌番号	拙稿 (7) の訳文	訂正
29	美しい者	美しさをそなえた者
51	前世	前生